

新造VLGC “Pyxis Alfa” 進水

■ クミアイのジクシス向け、川重神戸LPG船進水 21年ぶり

くみあい船舶グループのシンガポール法人クミアイナビゲーションが川崎重工業に発注した8万2200 m^3 型の大型LPG船(VLGC)の命名・進水式が22日、神戸工場第4船台で開催された。来年5月の竣工後にクミアイがLPG元売りジクシスとの定期用船契約に投入する新造船で、ジクシスの山本一徳社長により“Pyxis Alfa”と命名された。川崎重工神戸工場のVLGC建造は竣工ベースで23年ぶり。また、神戸工場のLPG船進水は21年ぶりとなった。

山本社長のご令室、山本和代さんによって支綱切断されると、“Pyxis Alfa”は船台を勢いよく神戸の海へと滑り出た。船名にはジクシスの社名のもとになっている、羅針盤座「ピクシス」と、その星座のなかで最も明るい星「アルファ」を組み合わせた。ジクシスは昨年、VLGC3隻の新造整備(いずれも用船)を実施しており、そのうちの1隻。

クミアイはVLGC、バルカー、タンカーの保有を柱とし、VLG



C船隊は就航船3隻、新造発注残2隻。“Pyxis Alfa”は、川崎重工坂出工場で2013年に竣工しジクシスに貸船している“Crystal Sunrise”の姉妹船になる。

“Pyxis Alfa”はくみあい船舶グループにとっても、川崎重工神戸工場にとっても記憶に残る船となる。神戸工場が最後にVLGCを竣工したのは1994年の“JA Sunshine”で、同船もくみあい船

舶向けだった。LPG船はかつて神戸工場の主力製品だったが、95年の阪神大震災で工場が被災。震災翌日に進水予定だった中型LPG船が船台上にあったことから、その船は坂出工場で作成させたが、神戸工場はしばらく新造船事業そのものを停止し、再開後も一般商船の建造はハンディマックス・バルカーに集中していた。近年、高付加価値製品に軸足を移す中でVLGCを再開。その一番船が今回のクミアイの船だ。

“Pyxis Alfa”は川崎重工が開発した船首形状「SEA-ARROW」を採用した8万2200 m^3 型LPG船として川重全体で4隻目になる。航行の際に船首部に発生する波を極限まで減少させ、推進性能を向上。主機関には省燃費型の電子制御式超ロングストローク2サイクル低速ディーゼル機関を採用し、プロペラ周りにカワサキフィン付ラダーバルブ、コントラフィン付セミダクトを装備して、燃料消費量の低減を図る。新パナマ運河規則に

(この項、6ページに続く)

対応した船型・設備を備える。船籍はシンガポール、船級は日本海事協会。

神戸工場で行われた式典には一般神戸市民や川崎重工の従業員家族・OB・招待者が計3800人参加。現在、他造船所はVLGCをドライドックで建造していることから、船台を滑って進水するVLGCの姿は世界で神戸工場でしか見ることができない。大型船が海へと滑り出る姿に観客は歓声を上げた。

「付加価値提供に努力」とクミアイ・黒柳社長

神戸市内で同日開催された祝賀会で、船主、造船所、用船者など関係者が集い、「Pyxis Alfa」の命名と進水を祝うとともに、同船に期待を寄せた。



黒柳MD

船主を代表して挨拶に立ったクミアイナビゲーションの黒柳智丸マネージング・ダイレクターは、ジクシスとその前身会社へのLPG船貸船が通算7隻になることを紹介し、「31年の長きにわたりご愛顧いただいている。ジクシスのような超一流の用船者と取引できることは船主冥利に尽きる。今日まで

のご厚情に甘えず他船主にない付加価値の提供に、愚直に努めることが肝心。今後も一層、船主の自分である安全・効率運航、良質な船舶管理に心血を注ぐ」と決意を語った。また、川崎重工に対しては、「1990年に最初の船を建造いただいてから本船が12隻目で、このうち8隻がLPG船。縁というのは誠に不思議なもの。94年の神戸工場での最後の竣工となったVLGCも当社グループの所有船。神戸工場のVLGC建造再開第1船が当社船であることに心より感動を覚える」と語った。今回の新造船については「低燃費化、超低速運転への対応、新パナマ運河通航要件への対応など随所に最新鋭の技術を取り入れ、特に浅喫水のデザインはジクシスの国内事業の中核地である川崎、碧南、四日市に最適な船型。素晴らしい船に仕上がることは疑いようがない」と期待を示した。

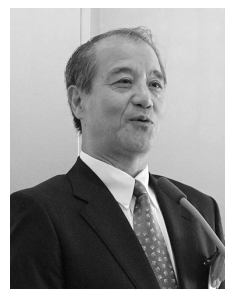
川崎重工業の餅田義典常務（船舶海洋カンパニープレジデント）は「当社神戸工場が久しぶりにLPG船を建造する機会をいただいた。中国の合弁造船所NACKS（南通中遠



餅田常務

川崎船舶工程）でもクミアイ発注のバルカーの建造が本格化している。坂出工場、NACKSの建造船も含めて深いお付き合いをさせていただいていることは当社に大きな信頼を寄せていただいた結果と自負しており、建造者としてこの上ない光栄だ」とし、ジクシスに対しては「LPG船を主力製品の一つとする当社として本船を通して新たな関係を構築できることを光栄に思う」と述べた。

ジクシスは昭和シェル石油、コスモ石油、東燃ゼネラル石油、住友商事のLPG事業を統合して昨年発足した。山本一徳社長は



山本社長

「Pyxis Alfa」が滑走し進水する姿を目の当たりにして、涙が出るほど感動した。激動するLPG市場において、LPGの未来を指し示す羅針盤となる会社でありたいという当社の願いを実現するために、この船が名実ともに先陣を切って突き進み、当社のLPGの輸入、トレーディング事業の大きな戦力となり、ひいては日本全国の当社の顧客へのLPGの安定供給に貢献すると信じている」と述べた。

神戸運輸監理部の秋田務部長が乾杯の音頭を取った。

くみあい船舶、開港150年迎える神戸に寄付・植樹

くみあい船舶は大型LPG船(VLGC)「Pyxis Alfa」の川崎重工業神戸工場での進水を記念し、来年開港150年を迎える神戸港のメリケンパーク内に「ソメイヨシノ」の植樹を行った。同社グループによる社会貢献活動「きづきの森」プロジェクトの一環。

21日に植樹式が行われ、同社の米田千賀子顧問、クミアイナビゲーションの黒柳智丸マネージ

ング・ダイレクターが植樹を行った。

この植樹は、企業版ふるさと納税活用事業である「開港150年を契機とした、みなと神戸の顔『メリケンパーク』の活性化事業」に対する、くみあい船舶、クミアイナビゲーションの寄附に基づいて実施された。くみあい船舶グループの社会貢献活動の一環でもある。



植樹する米田氏